

## 意見交換会開催内容（⑩大原小学校）

**日時：**平成24年6月29日（金）午後7時～8時40分

**場所：**大原小学校 体育館

**出席者：**21名

**意見：**第1段階の統合はいつから実施するのか。

**回答：**平成26年度を目標年度としていますが、地元説明会の状況によっては平成27年度になる可能性もあります。

**意見：**小学校の現在の児童数は4,151人なので、6学年で割ると1学年だいたい700人になる。また、1学級を40人とすると1学年だいたい18学級ということになる。1学年3学級を適正規模とすると笠間市は6校あれば充分ということになるがこういう考えでよろしいか。

**回答：**数字としてはそうなりますが、地理的な条件もありますので計算どおりにはいかないというふうにご理解ください。

**意見：**通学などの課題はあると思うが、もっと学校を減らして1校の規模を大きくしたほうが良いと思う。

**回答：**もっと学区を大きくしたほうが良いという考え方も当然あると思いますが、地理的な状況を考慮した結果、こうした答申になったという経緯があります。

**意見：**大原小学校は友部小学校に入るのが必然的だとだれも思うかもしれないが、友部小学校が築40年なのに対して大原小学校はまだ9年しか経っていないし、地域に開かれた学校として建てられた経緯がある。子どもたちの学力を考えた場合、中心部に集めることばかりが良いとは言えない。友部小学校に近い友部第二小学校を友部小学校に統合し、周りの子どもたちが大原小学校に通うということではどうか。

**回答：**友部小学校は平成9年と10年の2年間で耐震補強工事を実施しています。学区審議会では子どもたちの通学距離や調整区域を考慮して答申という最終結論になったわけであって、決して意図的に中心部に集めるということではありません。

**意見：**滝川地区から新しい道路ができたことによって池野辺地区は大原小学校にだいぶ近くなった。そのため、池野辺の保護者からは笠間小学校よりも大原小学校のほうが近くて便利だという声も聞かれる。笠間市が合併したのだから、地域にこだわらずに池野辺から大原小学校に来ることがあってもいいのではないか。

**回答：**学区審議会でも同様の意見がありました。実施計画の策定にあたっては、旧市町で線を引くのではなく、保護者や子どもたちの希望があれば受け入れるという仕組みも考慮していきたいと思っています。

**意見：**鴻巣・南友部地区との協定書の話が学区審議会で協議されたということだが、十数年前の協定内容をそのまま取り上げるのではなく、現在に見合った方針や筋道を立てた対処が望ましいと思うがどうか。

**回答：**この協定は旧友部町教育委員会と鴻巣・南友部地区の区長さん方の間で平成13年5月に締結されています。学区審議会では調整区域に線を引くべきだとする意見も出されましたが、現在もこの協定書が有効であるという判断からこの調整区域をそのまま残したという経緯があります。一方、ベリオ・コリナ会区は平成13年12月に調整区域として協定が締結されましたが、子どもたちは当初から宍戸小学校に通っていたことから調整区域である必要はないということになりました。こうした協定書があるということをご理解いただきたいと思います。

**意見：**その協定書は何年間有効なのか。

**回答：**協定書に有効期限の規定はありません。

**意見：**有効期限の規定がないのであれば、それに縛られずに見直しをしたほうが良いのではないか。

**回答：**協定書の第5条に「本協定の解釈運用に疑義が生じたときは、甲、乙が誠意を持って協議する」とあります。学区審議会では、本協定の締結から11年しか経っていないという考えからこの協定書を尊重せざるを得ないという判断がなされました。

**意見：**友部駅北口の開設によって今後北口にも相応の人口が張り付くものと考えているが、学区審

議会ではそういうことも加味して検討してきたのか。

**回答：**開発に伴って学校をどのように維持していくかということについては話題になりませんでした。しかし、人口の新たな増加によって大原小学校区の人数が増えるということになれば、実施計画を見直していくということになります。今年度に策定する実施計画が未来永劫続くということではありませんのでご了解をいただきたいと思います。

**意見：**第2段階については、1学年の新入児童数20人未満の状態が数年続くと判断される場合に見直しを開始するということだが、その場合も説明会や意見交換会は行われるのか。

**回答：**行います。

**意見：**クラス替えができないことによる弊害が問題視されているが、逆に規模が大きくなって児童生徒数が増加し、先生が一人ひとりに目を向けることができなくなってしまうことも心配である。

**回答：**人数が極端に少ない場合は、子どもたちの社会性の育成が心配されます。答申で新入児童数を20人未満としてあるのは、20人いれば体育等のチーム編成が充分できますし、先生の努力によって子どもたちの社会性を育てていくことができると判断したからです。現在はこの学校でも少人数学習が行われていますし、2人の先生で授業を行うティームティーチングも行われていますが、これは学習集団としては小さいほうが望ましく、生活集団としては大きいほうが子どもたちの社会性が育つというふうに位置付けられているということです。

**意見：**大人の都合で統合するのではなく、子どもたちの気持ちを聞くべきではないのか。

**回答：**学校の統合にあたっては対象校の子どもたちの交流活動を実施し、自然な形で統合できるようにしていきます。既に統合を実施した市町村に聞き取り調査をしたところ、大人の心配をよそに、子どもたちはすぐに馴染んだという話をお聞きしました。子どもたちに心理的不安をかけないよう準備をしていくことも教育委員会の役割だと思っています。

**意見：**このままだと大原小学校は友部小学校に統合される可能性が高いということか。

**回答：**調整区域から大原小学校に毎年何人ぐらいが入学するのか分かりませんが、大原小学校区の人数に調整区域から来る人数をプラスして考えていかなければなりません。今後の入学児童が20人を下回り、その後もその状態が続くと考えられる場合には見直しを実施していくこととなります。

**意見：**このままでは子どもの数が減る一方なので、いかに調整区域やほかの地区から大原小学校に来てもらえるかが課題だと思う。大原小学校が魅力ある学校であり、ここに入れたいと思われるような学校にするために市・教育委員会側から支援することはできないか。

**回答：**大原小学校だけを支援することはできませんが、教育委員会としても魅力ある環境づくりに努力をしていきたいと考えています。

**意見：**市で友部駅北側の整備を進めているが、駅北の定住化施策によって大原小学校を絶対になくさないという姿勢を打ち出すべきではないか。

**回答：**学区審議会は子どもたちの教育環境を第一に考えることを基本としており、定住化施策や駅北開発による将来的な効果を合わせて審議する組織ではないことをご理解いただきたいと思います。